

2018年7月19日

府中市サッカー連盟
加盟チーム代表者 各位

府中市サッカー連盟
会長 市村 忠司

夏季における飲水タイムの設定について(通知)

表題について、今年は猛暑日が連続しており、スポーツにおける試合中の給水は熱中症予防という安全面の観点からも必須となります。選手の熱中症予防という安全面とパフォーマンスの向上を図ることを目的並びにJFA通達「熱中症対策ガイドライン」に基づき、下記のとおり飲水タイムを設定することといたしたい。

記

1. 飲水タイムの設置基準

①「当連盟のとしての基準」

近年は猛暑日が連続しており、1種(社会人)においても熱中症予防を踏まえ、試合中の十分な水分の補給が必要かつ重要であると判断し、当連盟としては、JFAガイドラインの2、3種同様に「飲水タイム」の運用を実施します。

②各試合の前に、運営担当者より両チームへ「飲水タイム」を設けることを伝達する。

2. 飲水タイムの実施決定について

①飲水を実施するか否かの最終判断は各試合前に「当該試合担当本部・審判団」が協議の上、決定する。

②試合中において、時間の経過にともなって環境条件がかなり変わった場合は、飲水を実施するかしないかの判断を主審がハーフタイムに変更してよい。

3. 飲水タイムの実施方法

①前後半それぞれの半分の時間を経過したところ(30分ハーフの場合は約15分)、試合の流れの中で両チームに有利、不利が生じないようなボールがアウトオブプレーの時に、主審の指示により選手全員に飲水をさせる。もっとも良いのは中盤でのスローインの時であるが、負傷者のための担架を入れた時やゴールキックの時も可能である。

②選手はあらかじめライン外に置かれているボトルをとるか、それぞれのチームベンチの前でベンチのチーム関係者から容器を受け取って、ライン上で飲水する。
審判もこの時に飲水して良い。

③スポーツドリンク等、水以外の飲料の補給については、飲料がこぼれて、その含有物によっては競技場の施設を汚したりする恐れもある。大会主催者が水以外の持ち込み可否及び摂取可能エリアについて、使用会場に確認をとって運用を決定するので、会場ごとにその指示に従って、飲水する。

④飲水タイムは1分間とし、審判は選手にポジションにつくよう指示してなるべく早く試合を再開する。

⑤飲水タイムは、あくまでも飲水のためであり、休憩や戦術指示のための時間ではない。

4. 飲水に要した時間

飲水タイムに費やされた時間(1分間)は、前後半それぞれの時間に追加される。